

マルティン・ガルシア・ガルシア (ピアノ)

スペイン出身のピアニスト、マルティン・ガルシア・ガルシアは、聴衆と批評家の双方を魅了し続けている。ニューヨーク・コンサート・レビューは、「常に新鮮で深く思索された解釈を探求し続けており、声部のコントロールと色彩感あふれる音色で聴衆を熱狂させた」と評している。

ガルシアは、2021年クリーヴランド国際ピアノ・コンクールで第1位、同年のショパン国際ピアノ・コンクールで第3位を受賞し、さらに同コンクールにおいてワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団より最優秀協奏曲演奏に対する特別賞を授与された。2022年には、ハンブルク交響楽団よりサー・ジェフリー・テイト賞を受賞している。その大胆な音楽的選択はとりわけ高く評価され、「ガルシアのショパンとリストは超越的な力を示した。巨大で柔軟な響き、恐れを知らぬヴィルトウオジティ、そして作品一つひとつを生き生きとした音楽劇へと変貌させるヴィジョンを備えている」(ConcertoNet)と称賛された。

日本では、人気音楽番組「題名のない音楽会」や、街角ピアノ スペシャル「ガルシア・ガルシア日本に行く」で見せた明るくチャーミングな一面と、卓越したピアノ演奏のギャップが話題に。全国各地でのコンサートは大盛況を博す。

これまでに、ハンブルク交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団、スペイン国立管弦楽団、バルセロナ交響楽団(OBC)、シンフォニア・ヴァルソヴィア、東京フィルハーモニー交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、ブラジリア管弦楽団、リトアニア国立交響楽団、NHK交響楽団など、世界有数のオーケストラと共演している。指揮者には、ミハイル・プレトニョフ、ヴァシリー・ペトレンコ、アンドレイ・ボレイコら名匠が名を連ねる。

2025年にはアルバム『サイレント・ミュージック』をリリースし、聴衆から高い評価を受けた『ショパンとその師』(2022年)、『イーヴン=タイド』(2024年)に続く成功を収めた。演奏は各方面から絶賛され、ニューヨーク・クラシカル・レビューは「卓越した音楽性と不屈のテクニックを備えた驚異的なピアニスト」と評し、Bachtrackは「優れたコントロール、洗練されたペダリング、明晰なテクスチュア、節度あるルバート、そして細部への徹底した注意」を称賛している。Scherzo誌もまた、「感受性、情熱、そして舞台上での完全な献身」を高く評価した。

2026/27シーズンには、中国、日本、台湾、オーストラリアを巡るツアーを予定しており、20か国以上に及ぶ公演活動を通して、同世代で最も国際的に活躍するピアニストの一人としての地位をさらに確固たるものにしていく。

マルティン・ガルシアは、ガリーナ・エギアザロワに師事したマドリードのソフィア王妃高等音楽院を卒業し、ソフィア王妃より最優秀学生賞を授与された。その後、ニューヨークのマネス音楽院にてジェローム・ローズに師事し、ピアノ専攻の修士号を取得している。

Revista Musical Catalanaは次のように評している。「ガルシアは、極限のリスクと絶対的なコントロールを融合させた、明確無比なスタイルを築き上げる、現代を代表する真の音楽的建築家の一人である。」



Martín
García García



N響メンバーによる室内合奏団

N響は楽員による室内楽活動も活発で、室内オーケストラは質、人気ともにトップクラスの水準を誇っている。

クラシックビギナーから本格的な愛好者まで魅了するポ

ピュラーで多彩なレパートリーで、その綿密なアンサンブル、華やかな音色は「室内楽の最高峰」と日本各地で高い人気と評価を得ている。